乳飲み子を抱いて

吉田　トモヨ

原爆が落ちた時、私は愛媛県西条市大町福武甲1642−2番地の、夫吉田虎夫の父母の家で、一歳の長男を抱え農業を手伝いながら夫の帰りを楽しみにしていました。八月六日、広島に新型爆弾が落ち、広島は全滅とかの噂を聞きビックリしました。夫の虎夫は広島兵器補給廠に勤務（四国善通寺に入隊後に広島へ転勤）。広島市が、全滅状態の噂。報道もあるが、夫からは何日待っても何の連絡も無く、亡くなってしまったと、乳飲み子を抱いて毎日毎日を嘆きおりました。日本がとうとう負けた。私の実家、下朝倉の近くの〝みあがさき〟で男の老人に夫の安否を拝んでもらいますと、死んでしまったと思っていましたが、占い師は大きな怪我（けが）はしているが、生きている。一度妻のトモヨと息子の勝太郎に会いたいと言っている、と言われました。何事も人に頼りがりの乳飲み子を抱える私では、どうも出来ないので親族相談の結果、実姉、岡田トラヨが連れて行ってやると言ってくれることになり、三人で広島の夫を捜しに行くことになりました。戦争に負けた日の次の次の日でしたので、多分敗戦の日に拝んでもらったのだと思います（わらをもつかむ思いからでした）。今治港から船に乗り尾道港へ、港にへばり付いている様な尾道駅で随分待ってから、やっとこさ超満員の汽車で広島に入りました。

着いた広島市は見渡す限り、一面の焼け野原で、何処が何処かさっぱり分かりません（私は娘時代、家事見習いで広島市の牛田で、中隊長さんの家にいた事があり、大隊長で転勤となり神戸に移ってから、しばらくして嫁に行きましたので、休みに八丁堀とか、紙屋町付近は少しは知っていましたが）。姉が兵器補給廠の場所を聞き尋ねました。姉に頼りきりどのようにして行ったか定かでありません。

私が行ったのは敗戦の三日目で駅付近はかなり整理され、死体等は見ませんでしたが異様な人が多くて、